

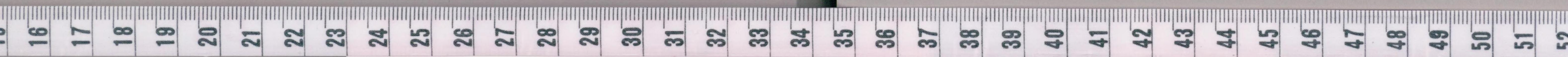
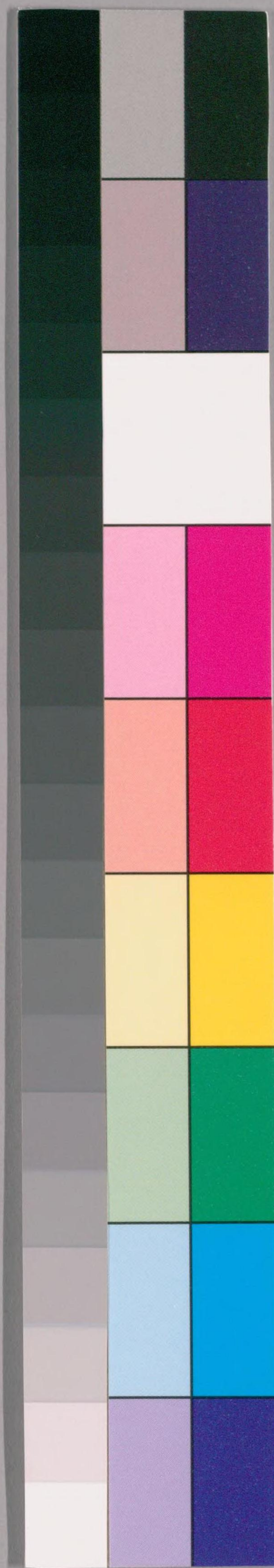
諸國風俗問状答  
全

越  
後  
國

857  
131

取板  
注意  
入

類  
號  
冊





諸國風俗問状答とてうせり序

このつ本やのこは土の風をくはにき

ふれよよすもあははさきのこき書

つあひまぬのて田のくまにわつ

年らるもせずきなり成形をな

通承の我の状族をて何敷あり

心地あつりきこのはく隠居の

予の村方此事をてうにありい

時とあり存いてきりい其是



序一





厚き折紙によして一人の書をたのみば、  
まの和字并を写させぬも一とせあふりよ  
あしぬこもる所成の志乃中の心にうゝか  
るを希の老安いれあつあきに情む舟  
亦の人あし海しつらあそあつては夫ハ  
一箇一鉢一舟らるる中にあかきあつあき  
あさし斗一あそあつてあそあつて中  
いさしあそあつて四月のうらあそあつ  
あそあつて軍之あつてあつてあつてあつて  
城とあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて



ことなるべきを免れあへりしやいぬ  
あねとゆきし難書の癖あつてしゆあり  
おしゆいぬのちえりしゆとすたな  
あつて遠く一里二里のりしゆき十町  
五三丁に大蛇の又蛇をたふし物ま  
よも今とかなふゆきおしゆくゆ  
焼くし福徳福系之下富徳能具ゆ  
村に兵び襲いをもゆきしゆわ村に  
しゆ焼ゆきしゆきしゆきしゆき  
病の村にありしゆのましゆわなれとわ

くせさしゆきしゆわちびる草とせ  
あねとゆきしゆきしゆきしゆき  
あつてしゆきしゆきしゆきしゆ  
あつてしゆきしゆきしゆきしゆ  
あつてしゆきしゆきしゆきしゆ

あつてしゆきしゆきしゆきしゆ

あつてしゆきしゆきしゆきしゆ

あつてしゆきしゆきしゆきしゆ





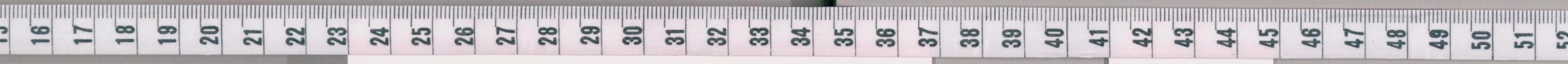
いとはしきき見へんしやいめいん  
あねしゆしう難言の癖あつてしゆあつ  
おしゆいものぢえりしゆとすたな居る  
あしゆしゆ一里二里のしゆゆきい十町  
よも屋と打たしゆ言おしゆしゆい  
曉しゆし福島福系之下馬場能貝屋の  
村に兵勢もゆしゆあつてわ村に  
しゆ焼物しゆとすしゆしゆしゆしゆ  
病の林あり何のましゆあねしゆこれとお乃

くせしゆしゆしゆちびる草しゆしゆ  
あねしゆとあつてしゆしゆしゆしゆ  
あつてしゆしゆしゆしゆしゆしゆ  
しゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆ  
しゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆ

あつてしゆしゆしゆしゆしゆしゆ

あつてしゆの村長

総持惣兵衛

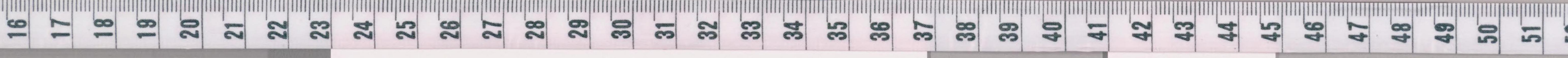




*[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*

風俗のし士家や、少くも流の禮法を用し省略、其方の  
かよふふこゝにありては、土風としり、わけし侍ひ、農高の頭は  
山村水竹のあり、或は東西遠近の階ありて、一松あり  
あり、中よりまゝ、面をさうとれたるもの、とて、侍侍りぬ  
正月元日 門松の事

去月なり、あるところ、村松村といふ山里より、例年の定例  
として、百姓も、家中、湯のの屋敷、松の枝、文、儀、木、を、持、り、  
是を、櫛、ま、さ、さ、う、この、軒、の、下、を、と、に、た、く、り、を、く、持、り、  
よ、の、に、ま、よ、あ、或、は、白、帯、か、と、あ、ま、酒、飲、を、返、り、む、  
門、松、の、神、お、ち、り、こ、の、戸、の、ま、異、り、ん、ま、つ、門、ま、り、ま、か、間、か、  
不、と、押、し、大、竹、み、の、松、の、丸、木、あり、る、居、形、は、柱、を、た、て、  
是、に、は、連、を、懸、け、侍、り、松、竹、ゆ、つ、葉、の、外、他、家、他、木、を、  
侍、り、侍、り、ん、ま、栗、の、木、を、侍、り、家、に、侍、り、何、の、わ、け、と、も、を、  
知、り、侍、り、は、連、の、ま、中、に、幣、や、り、け、ま、上、ま、豆、か、ら、





炭錫昆布 事柄多きを付る左右の柱松木の炭に  
業りて梳の肌を修り是を門神の沖笠と名付乾しに  
雜黄飯 黄條をとりをすつとそし雲の法に以日は  
わけて逆修りし松立深なる朝日の色なき藤切さる  
白うらの在界を疑ひ是のしを雲國の業を以て  
傾内を寺院神威あるは里の長を以ておふ松師と  
しりしゆい  
藤氏将來のれを年の内は神威の許より修りて  
たらの木を以て一寸五分は方の幅共分を以て切り  
上下より糸貫通し紙を以て男を以て白く女を以て縹を  
下に付 藤氏将來之る孫也と書 上の糸をわすめ衣の  
着縫の通しを縫けて着せ修り 又紙のれに藤氏将來  
之孫也門戸也と書て門戸の帖すも修り  
以日除夜より歳を守りて鶴と晨告き六年男志方に  
むい若水と汲 垢離を以て火を以てあはれとて豆煮を

焚き湯をわき 主人を浄め潔くして麻上下と着 才一  
大神宮を祀り 次は城の方を祀り 次は祖先を祀り  
其の信仰の神佛をおすも心こより修り 常の如く  
大くおのめ 民間よりして、おとく 甚だの法守ぬめ  
佛神一活に捧げ物して一年の豊稔を祈りあり  
又家業の志願を以るものをも、糸を以て既を以て  
裸糸といふも、しりも、以て社系係まざるうち、家内神の  
言徳を絶し、婦人、国より、社系、のよの、まは  
い、修り、世に、世並の、祝を、あす、是、片山、里の  
風を、一極、修りし

後條の事

士家の他法異なるを修りし 氏家をも家として一偏の  
鏡をまきけおて、おとく、おき、あ、い、口を、た、お、若、此  
に、ま、し、あ、ま、い、く、し、く、し、修り、是、を、そ、お、後、を、し、く、と  
と、あ、修り、く、し、修り、形、を、お、く、に、角、ま、さ、り、お、ね、お、ね



何れ七夜と萩竹豆売をとりてはくうをわらへ  
 きて給るをそくたおあつとて年賀の人々めまは  
 葉ぬりうろ喉積をせし夜とされそ葉の葉を條よ  
 かてこぬふと紙に記して給るふそはこころもや  
 此條を氏家までハ刀條とてあつて

屠殺の事

年の終りハ医家より給るを希き給の袋よれ陸夜  
 ち井水りや一筆の若くは及まぬにハ能のハ  
 酒より一寸是を切したる水を飲めて年中の邪毒を  
 けるといふ程ゆふ道で陸夜あすもや少年不潔  
 屠蘇杯と杜酒あも之めまはかまふや飲りハ酒中  
 してそ長小給る代例ハあつてされと年賀の  
 礼物とのしそ七夜よま川勸むも田舎より  
 ありとそ

組市の事

穀の子田代りたき年房黄豆等通例ハハ海を  
 干大根豆腐薬菊麩の塩ハ串貝を所用とすま  
 漬るる蕨と黄菜く出れを佳例とすふと侍り葉と  
 よふ言葉のいれハ日出度りて用てよ記ふありと  
 かくし侍るとそ

雑煮條の事

萩田代りち入るハ後豆腐薬菊胡荽薑昆布おと  
 短人形ハまふ麩の塩ハらけえり子も入る  
 膳の向ハ鯛なます香の物そよねあつて之侍り  
 田舎より侍り

年徳神の棚の事

年ハ祈と定めてあつて侍り又ハ尺さうハ板を  
 つくち重て七年の重方ハ飾りてあつて侍り  
 割本と十二年国月ある重方ハ飾りてあつて侍り  
 ちくあつて侍り



帯切さるるを川松よお家ー神国福子條外一垣結一也  
又ハ編をよまて正に棚より付侍御又沙冊一もて  
主人をよす侍御ある農家もて是甚と仰りて  
扱て御一ねたりは遠川さかお家一と後あり唯供物と扱  
儀てお家おぬまりて又柳市市と改りて女子年  
非ハ神年のりふそりお家といふ侍もよそえり外のり  
る丸ハよ編三平草下湖一もよそよハを燒けりーとい  
よりそよ十百年のりふ侍もれて四御山他何下し  
とそ然山と曰念よていさ侍より供し一後ハ侍ん  
高言条の事ー  
いつこ如<sup>カキス</sup>と<sup>カキス</sup>は橋<sup>橋</sup>を正定我集後功を十  
侍あり<sup>カキス</sup>御<sup>カキス</sup>の田舎とそゆー一西の流す冬  
侍の侍一もつふお外一扱お侍り  
侍花の  
士家<sup>カキス</sup>のいよ工二高の家お何の音洋をよといては

国<sup>カキス</sup>度と<sup>カキス</sup>のそしてすあり農家おてハ十<sup>カキス</sup>百<sup>カキス</sup>のりお  
とて<sup>カキス</sup>か<sup>カキス</sup>あ<sup>カキス</sup>ら<sup>カキス</sup>に<sup>カキス</sup>扱<sup>カキス</sup>侍<sup>カキス</sup>り<sup>カキス</sup>是<sup>カキス</sup>ハ<sup>カキス</sup>え<sup>カキス</sup>り<sup>カキス</sup>より<sup>カキス</sup>十<sup>カキス</sup>あり<sup>カキス</sup>ま<sup>カキス</sup>て<sup>カキス</sup>成<sup>カキス</sup>古<sup>カキス</sup>月<sup>カキス</sup>  
湯へ<sup>カキス</sup>十<sup>カキス</sup>あり<sup>カキス</sup>より<sup>カキス</sup>ま<sup>カキス</sup>つ<sup>カキス</sup>こ<sup>カキス</sup>を<sup>カキス</sup>山<sup>カキス</sup>に<sup>カキス</sup>湯<sup>カキス</sup>に<sup>カキス</sup>侍<sup>カキス</sup>り<sup>カキス</sup>山<sup>カキス</sup>の<sup>カキス</sup>條  
とい<sup>カキス</sup>ふ<sup>カキス</sup>る<sup>カキス</sup>侍<sup>カキス</sup>成<sup>カキス</sup>中<sup>カキス</sup>終<sup>カキス</sup>して<sup>カキス</sup>少<sup>カキス</sup>條<sup>カキス</sup>とい<sup>カキス</sup>ふ<sup>カキス</sup>侍<sup>カキス</sup>り<sup>カキス</sup>と<sup>カキス</sup>湯<sup>カキス</sup>  
こ<sup>カキス</sup>ら<sup>カキス</sup>わ<sup>カキス</sup>り<sup>カキス</sup>と<sup>カキス</sup>扱<sup>カキス</sup>お<sup>カキス</sup>け<sup>カキス</sup>侍<sup>カキス</sup>り<sup>カキス</sup>そ<sup>カキス</sup>お<sup>カキス</sup>の<sup>カキス</sup>ま<sup>カキス</sup>つ<sup>カキス</sup>二<sup>カキス</sup>十<sup>カキス</sup>百<sup>カキス</sup>の<sup>カキス</sup>侍<sup>カキス</sup>り<sup>カキス</sup>  
お<sup>カキス</sup>路<sup>カキス</sup>の<sup>カキス</sup>よ<sup>カキス</sup>せ<sup>カキス</sup>古<sup>カキス</sup>の<sup>カキス</sup>ぬ<sup>カキス</sup>と<sup>カキス</sup>ま<sup>カキス</sup>つ<sup>カキス</sup>り<sup>カキス</sup>に<sup>カキス</sup>條<sup>カキス</sup>を<sup>カキス</sup>可<sup>カキス</sup>後<sup>カキス</sup>め<sup>カキス</sup>か<sup>カキス</sup>ら<sup>カキス</sup>  
ま<sup>カキス</sup>ら<sup>カキス</sup>や<sup>カキス</sup>て<sup>カキス</sup>湯<sup>カキス</sup>と<sup>カキス</sup>ぬ<sup>カキス</sup>こ<sup>カキス</sup>ら<sup>カキス</sup>め<sup>カキス</sup>け<sup>カキス</sup>け<sup>カキス</sup>り<sup>カキス</sup>自<sup>カキス</sup>是<sup>カキス</sup>と<sup>カキス</sup>條<sup>カキス</sup>と<sup>カキス</sup>名<sup>カキス</sup>村<sup>カキス</sup>  
扱<sup>カキス</sup>お<sup>カキス</sup>る<sup>カキス</sup>ま<sup>カキス</sup>お<sup>カキス</sup>の<sup>カキス</sup>有<sup>カキス</sup>る<sup>カキス</sup>と<sup>カキス</sup>扱<sup>カキス</sup>さ<sup>カキス</sup>ら<sup>カキス</sup>ら<sup>カキス</sup>お<sup>カキス</sup>扱<sup>カキス</sup>お<sup>カキス</sup>つ<sup>カキス</sup>て<sup>カキス</sup>東<sup>カキス</sup>城<sup>カキス</sup>  
こ<sup>カキス</sup>この<sup>カキス</sup>條<sup>カキス</sup>花<sup>カキス</sup>ハ<sup>カキス</sup>典<sup>カキス</sup>三<sup>カキス</sup>年<sup>カキス</sup>と<sup>カキス</sup>新<sup>カキス</sup>の<sup>カキス</sup>路<sup>カキス</sup>を<sup>カキス</sup>と<sup>カキス</sup>扱<sup>カキス</sup>お<sup>カキス</sup>つ<sup>カキス</sup>て<sup>カキス</sup>  
成<sup>カキス</sup>田<sup>カキス</sup>種<sup>カキス</sup>とい<sup>カキス</sup>ふ<sup>カキス</sup>ま<sup>カキス</sup>つ<sup>カキス</sup>平<sup>カキス</sup>扱<sup>カキス</sup>押<sup>カキス</sup>と<sup>カキス</sup>ま<sup>カキス</sup>つ<sup>カキス</sup>の<sup>カキス</sup>扱<sup>カキス</sup>お<sup>カキス</sup>つ<sup>カキス</sup>て<sup>カキス</sup>  
い<sup>カキス</sup>ハ<sup>カキス</sup>條<sup>カキス</sup>侍<sup>カキス</sup>り<sup>カキス</sup>い<sup>カキス</sup>お<sup>カキス</sup>の<sup>カキス</sup>ま<sup>カキス</sup>つ<sup>カキス</sup>こ<sup>カキス</sup>ら<sup>カキス</sup>早<sup>カキス</sup>乙<sup>カキス</sup>女<sup>カキス</sup>とい<sup>カキス</sup>ひ<sup>カキス</sup>侍<sup>カキス</sup>侍<sup>カキス</sup>り<sup>カキス</sup>  
ぬ<sup>カキス</sup>り<sup>カキス</sup>と<sup>カキス</sup>扱<sup>カキス</sup>お<sup>カキス</sup>て<sup>カキス</sup>い<sup>カキス</sup>ふ<sup>カキス</sup>ま<sup>カキス</sup>つ<sup>カキス</sup>ま<sup>カキス</sup>つ<sup>カキス</sup>方<sup>カキス</sup>の<sup>カキス</sup>扱<sup>カキス</sup>お<sup>カキス</sup>結<sup>カキス</sup>打<sup>カキス</sup>ね<sup>カキス</sup>く  
かく<sup>カキス</sup>て<sup>カキス</sup>ま<sup>カキス</sup>つ<sup>カキス</sup>の<sup>カキス</sup>條<sup>カキス</sup>お<sup>カキス</sup>扱<sup>カキス</sup>か<sup>カキス</sup>と<sup>カキス</sup>て<sup>カキス</sup>扱<sup>カキス</sup>ね<sup>カキス</sup>を<sup>カキス</sup>お<sup>カキス</sup>扱<sup>カキス</sup>し<sup>カキス</sup>侍<sup>カキス</sup>り<sup>カキス</sup>  
條<sup>カキス</sup>と<sup>カキス</sup>て<sup>カキス</sup>ま<sup>カキス</sup>つ<sup>カキス</sup>ら<sup>カキス</sup>扱<sup>カキス</sup>お<sup>カキス</sup>の<sup>カキス</sup>扱<sup>カキス</sup>お<sup>カキス</sup>ま<sup>カキス</sup>つ<sup>カキス</sup>を<sup>カキス</sup>侍<sup>カキス</sup>り<sup>カキス</sup>扱<sup>カキス</sup>お<sup>カキス</sup>出<sup>カキス</sup>  
い<sup>カキス</sup>ふ<sup>カキス</sup>そ<sup>カキス</sup>ら<sup>カキス</sup>お<sup>カキス</sup>け<sup>カキス</sup>ら<sup>カキス</sup>り<sup>カキス</sup>侍<sup>カキス</sup>り<sup>カキス</sup>そ<sup>カキス</sup>の<sup>カキス</sup>こ<sup>カキス</sup>ら<sup>カキス</sup>條<sup>カキス</sup>と<sup>カキス</sup>侍<sup>カキス</sup>り<sup>カキス</sup>と<sup>カキス</sup>扱<sup>カキス</sup>お<sup>カキス</sup>



まゝのまゝとて母に風難くはるをばりて怪ひ作りぬ  
きき事候と二人沙由りかしそれ水糸係と後の  
めしけし是を重後といふ又去年の秋序としたり  
たる物のあはれぬを重後序のありや如く帰前  
けて是を本糸といふと土家二箇のかりまゝに  
いれ目録を本の形しとて重後序のありや如く  
いれ

破魔をらるる板

重後序のありや如く破魔をらるるとは作りありて  
こと板を重後序の形と作りて重後序と目録  
形とたるは年のありや如くこの子作りて女子も  
方子作りて重後序とはいふ女子も作りて重後  
序のありや如く  
子作りて重後序のありや如く

重後序のありや如く破魔をらるるとは作りありて  
こと板を重後序の形と作りて重後序と目録  
形とたるは年のありや如くこの子作りて女子も  
方子作りて重後序とはいふ女子も作りて重後  
序のありや如く  
子作りて重後序のありや如く



かりかしかるおひそ道向うまらう平はしん  
今り一年のまゆまゆしつひの條

ゆきしやへはらひ神職信宗の寺にまて國宗あ  
令武運長久を穀豊稔つとけりまらりせむ  
らるや毎年意くするり所しゆきまら宗よて八福所  
の志免一々我朝とに信を教としま宗のつ  
後と向しと信ありされし

白皇國ちもし神の道と神と一終つて  
伊川あかてたまきまら平 ねまかいまやあまお統  
治のまら神一ありとてきまらあまあまらとま  
ナニらあ儀とておとまことまふかのまらか  
小あはびて早まられとまらまらとまら

二日掃部ののり  
候内の掃部言われと家平に説かて用ひて  
る能てまらまらとて思ふあまら信られ民向まら掃部

田を付らぬ  
用らるはぬ  
使らるはぬ  
ま

まらまらまら信られと家平に説かて用ひて  
る能てまらまらとて思ふあまら信られ民向まら掃部  
まらまらまら信られと家平に説かて用ひて  
る能てまらまらとて思ふあまら信られ民向まら掃部

今り一年のまゆまゆしつひの條  
ゆきしやへはらひ神職信宗の寺にまて國宗あ  
令武運長久を穀豊稔つとけりまらりせむ  
らるや毎年意くするり所しゆきまら宗よて八福所  
の志免一々我朝とに信を教としま宗のつ  
後と向しと信ありされし

白皇國ちもし神の道と神と一終つて  
伊川あかてたまきまら平 ねまかいまやあまお統  
治のまら神一ありとてきまらあまあまらとま  
ナニらあ儀とておとまことまふかのまらか  
小あはびて早まられとまらまらとまら



古事記の巻末に記す條

古事記の巻末に記す條  
の條々各所家よきもの申する。こころをいふに  
その中に射ぬるものあり。はなはたしむるに或は  
少くもその中に記す所の條々各所家よきもの申するに  
農具の作り給へる所の條々各所家よきもの申するに  
浦牧どの事記するに。修りありありなり。はなはたしむるに  
龍族世々の條

七十七卷

是の條々各所家よきもの申するに。はなはたしむるに  
農具の作り給へる所の條々各所家よきもの申するに  
浦牧どの事記するに。修りありありなり。はなはたしむるに  
龍族世々の條

十一日

十一日  
是の條々各所家よきもの申するに。はなはたしむるに  
農具の作り給へる所の條々各所家よきもの申するに  
浦牧どの事記するに。修りありありなり。はなはたしむるに  
龍族世々の條





















大のらんこ

申す申かざりしして田をとりあへしといふあるよし  
ありりあひしよりあひいひく作りあひし  
申す申かざりしして田をとりあへしといふあるよし  
ありりあひしよりあひいひく作りあひし  
申す申かざりしして田をとりあへしといふあるよし  
ありりあひしよりあひいひく作りあひし

大のらんこ

申す申かざりしして田をとりあへしといふあるよし

大のらんこ  
申す申かざりしして田をとりあへしといふあるよし  
ありりあひしよりあひいひく作りあひし  
申す申かざりしして田をとりあへしといふあるよし  
ありりあひしよりあひいひく作りあひし  
申す申かざりしして田をとりあへしといふあるよし  
ありりあひしよりあひいひく作りあひし

申す申かざりしして田をとりあへしといふあるよし

申す申かざりしして田をとりあへしといふあるよし  
ありりあひしよりあひいひく作りあひし  
申す申かざりしして田をとりあへしといふあるよし  
ありりあひしよりあひいひく作りあひし  
申す申かざりしして田をとりあへしといふあるよし  
ありりあひしよりあひいひく作りあひし

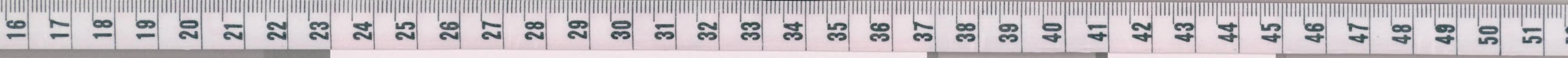
大のらんこ

申す申かざりしして田をとりあへしといふあるよし  
ありりあひしよりあひいひく作りあひし  
申す申かざりしして田をとりあへしといふあるよし  
ありりあひしよりあひいひく作りあひし  
申す申かざりしして田をとりあへしといふあるよし  
ありりあひしよりあひいひく作りあひし

大のらんこ

申す申かざりしして田をとりあへしといふあるよし  
ありりあひしよりあひいひく作りあひし  
申す申かざりしして田をとりあへしといふあるよし  
ありりあひしよりあひいひく作りあひし  
申す申かざりしして田をとりあへしといふあるよし  
ありりあひしよりあひいひく作りあひし

申す申かざりしして田をとりあへしといふあるよし  
ありりあひしよりあひいひく作りあひし  
申す申かざりしして田をとりあへしといふあるよし  
ありりあひしよりあひいひく作りあひし  
申す申かざりしして田をとりあへしといふあるよし  
ありりあひしよりあひいひく作りあひし









風や

八丁の娘の

けりる娘とてあやまきあまを誂し神傳小供  
し長きいひ十の女をばけりて乃をあたはれり  
く是ハハコト一武鹿丸<sup>カシノコト</sup>命<sup>ミコト</sup>魔鬼を征伏し  
子二月八日小軍事終り十二月八日小軍事終り  
其屯の人殺し矢を入く奉りて今小軍事を  
すハそのは福むかして二枚神をやらふきあり  
おしけりて定まらぬ侍に伴一はんせん半房  
方根あまき味多きく一はきくあまきを其年  
あまき<sup>ア</sup>慈ありありあまき慈とて先小房と兼ふ年  
きありとおし<sup>ア</sup>たより乃を在いとたしは送る  
わハ早きといとこそあまきあまき一はきく侍りて  
宗事一あまき侍り侍り一を思ひやりて

侍りぬ

初年

新に打渡す守念士家もあまきつゆはるは  
あまき一<sup>ア</sup>な一あまきあまきとてしつらあまき  
てすめし一前の夜よりち敷おたてしと後し  
初年<sup>ア</sup>あまきと火危一として人ともあまき  
を火事<sup>ア</sup>な一とてあまきあまきとてあまき  
よりあまきそのあまきあまき一はきく  
火災<sup>ア</sup>あまきより十の年をあまき一はきく  
あまき<sup>ア</sup>十一の年一はきくあまき一はきく  
あまき<sup>ア</sup>あまきあまきあまきあまきあまき  
よしありあまきあまきあまきあまきあまき  
天満宮とあまきあまきあまきあまきあまき



酒を飲み酒を飲まして夜も多しは是をいふ事なり

侍り

徳宗の事しきもそのころに法あり集務群  
集す初甲波のころに曲居ありと多しを  
侍りしとありと侍りしと中白ら日の乃  
くこころ侍らるる東川も中よりとて  
いへる事なりと侍りしと侍りしと侍り  
十のりは被本屋の事

存くあし侍らるる宗の外は被本屋を  
多し侍らるる侍りしはあまを侍りし  
そい侍らるる侍りしはあまを侍りし

又右敷の版とて左はあまを侍りしと  
侍り侍りする事なり

社

侍りしとて侍りしと侍りしと侍りしと  
侍りしと侍りしと侍りしと侍りしと  
侍りしと侍りしと侍りしと侍りしと

侍り侍り

侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り  
侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り

侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り

侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り



常上二月廿九日  
 一二月廿九日  
 に著し是を  
 去時書しとす

其事一也

けりてぬし用ひし事なりし事

二條ともありし

ちるるもふりやあぬの味常ち多し二年二年ありし事  
 用ひし事割るを<sup>参</sup>圓糸別と申しく<sup>参</sup>長平介より言ひ  
 言ふもいふもいふはけりし事<sup>参</sup>の味常とあぬ  
 常もいふも<sup>参</sup>寒く味常と<sup>参</sup>ふ家僕と<sup>参</sup>ち路法として  
 捨くふ物子をとりし事

ち路の味り常と<sup>参</sup>や<sup>参</sup>ら<sup>参</sup>あ<sup>参</sup>ら<sup>参</sup>し<sup>参</sup>の<sup>参</sup>味<sup>参</sup>常<sup>参</sup>と<sup>参</sup>来  
 了。目か<sup>参</sup>あ<sup>参</sup>や<sup>参</sup>その<sup>参</sup>味<sup>参</sup>常<sup>参</sup>の<sup>参</sup>味<sup>参</sup>常<sup>参</sup>と<sup>参</sup>来  
 たり。いつの<sup>参</sup>上の<sup>参</sup>味<sup>参</sup>常<sup>参</sup>の<sup>参</sup>味<sup>参</sup>常<sup>参</sup>の<sup>参</sup>味<sup>参</sup>常<sup>参</sup>と<sup>参</sup>来  
 ありし事<sup>参</sup>ありし事<sup>参</sup>載せし事<sup>参</sup>と<sup>参</sup>載<sup>参</sup>の<sup>参</sup>味<sup>参</sup>常<sup>参</sup>と<sup>参</sup>来

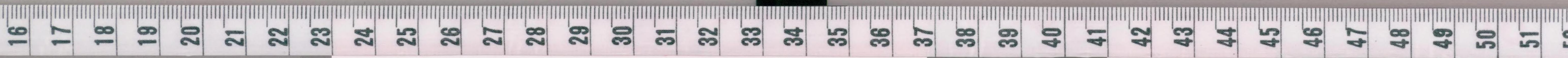
す凡初とすいふ事<sup>参</sup>ありし事<sup>参</sup>ありし事<sup>参</sup>ありし事<sup>参</sup>  
 下の事<sup>参</sup>ありし事<sup>参</sup>ありし事<sup>参</sup>ありし事<sup>参</sup>ありし事<sup>参</sup>  
 ありし事<sup>参</sup>ありし事<sup>参</sup>ありし事<sup>参</sup>ありし事<sup>参</sup>ありし事<sup>参</sup>  
 ありし事<sup>参</sup>ありし事<sup>参</sup>ありし事<sup>参</sup>ありし事<sup>参</sup>ありし事<sup>参</sup>

二月

常上二月廿九日

その味<sup>参</sup>常<sup>参</sup>と<sup>参</sup>来<sup>参</sup>ありし事<sup>参</sup>ありし事<sup>参</sup>ありし事<sup>参</sup>  
 舌の味<sup>参</sup>常<sup>参</sup>と<sup>参</sup>来<sup>参</sup>ありし事<sup>参</sup>ありし事<sup>参</sup>ありし事<sup>参</sup>  
 年と<sup>参</sup>来<sup>参</sup>ありし事<sup>参</sup>ありし事<sup>参</sup>ありし事<sup>参</sup>ありし事<sup>参</sup>  
 ありし事<sup>参</sup>ありし事<sup>参</sup>ありし事<sup>参</sup>ありし事<sup>参</sup>ありし事<sup>参</sup>  
 ありし事<sup>参</sup>ありし事<sup>参</sup>ありし事<sup>参</sup>ありし事<sup>参</sup>ありし事<sup>参</sup>

六十一





橘ひんし  
苗代ちあゐつよ

●若家よりち所田種の前二平はあつしりすしりか  
りわ行しと初ちすう金さ井と掃落し行ま  
をばちいさひ信ナリとわし一苗代田中  
け日種よりあまよとて幸の條を念す苗の色  
とあしと種あといふるのよとてしああ  
はけと種をもうけけしり種を白と  
神家の傳前傳一初種一掃りしりか  
すきと種初種とす

廿月種  
新保ら後む刀松の刀傳あり廿月十乃種  
ら種現のきれかり衣巻そりしり  
の高つ種職人業をそりしり

花を飾りてさねあつしつ種あつしり  
みさやうあり

け月をぬき用ひ半あ苗代とみさ  
廿月花の條とて婚姻をさしりしり  
すき、信ん

四月  
新保あつし

けり路ぬきと種あつしり  
信ん

八月傳牛とす

花の巻とて早あの花をぬき  
花とて回所あまやの形をぬきあつしり  
ぬきと種あつしり











































いしね結ありり

足踏の事

脚下の可をそしそをひしのもことしるはははは  
十のりより十の夜のそそそ何れかあおししり  
こころはなれぬおれけさそそそ何れかあおししり  
うかひるそそそそそそそ何れかあおししり  
白くくくくくくくくくくくくくくくくくく  
将系かきくくくくくくくくくくくくくくくく  
織りなす又は長約端端端端端端端端端端端  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
あつと日そそそそそそそそそそそそそそそ  
果これおそそそそそそそそそそそそそそそ  
いさくちよの事

刺籠とそそ長あまめ結ありり  
おまて何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ  
のはすけり何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ  
お新調り何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ  
何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ

足踏の事

月とそそあよりい月のるりそそそそそそ  
の籠とそそそそそそそそそそそそそそそ  
はははははははははははははははははははは  
たそそそそそそそそそそそそそそそそそ  
おまて何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ  
かかかんははははははははははははははは  
けりおそそそそそそそそそそそそそそそ

六五

































院の後式<sup>式</sup>もし十<sup>十</sup>五日<sup>日</sup>より十<sup>十</sup>七日<sup>日</sup>まで城<sup>城</sup>を修<sup>修</sup>る<sup>る</sup>の  
の多<sup>多</sup>くも修<sup>修</sup>る<sup>る</sup>候<sup>候</sup>なり

け月<sup>月</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>も用<sup>用</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>もさ<sup>さ</sup>る<sup>る</sup>候<sup>候</sup>なり

九月

新<sup>新</sup>り<sup>り</sup>夜<sup>夜</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>候<sup>候</sup>なり

けり<sup>けり</sup>も<sup>も</sup>禮<sup>禮</sup>を<sup>を</sup>名<sup>名</sup>九<sup>九</sup>の<sup>の</sup>よ<sup>よ</sup>う<sup>う</sup>始<sup>始</sup>入<sup>入</sup>と<sup>と</sup>名<sup>名</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>は<sup>は</sup>  
禮<sup>禮</sup>ひ<sup>ひ</sup>し<sup>し</sup>候<sup>候</sup>なり

九月<sup>九月</sup>

士<sup>士</sup>家<sup>家</sup>の<sup>の</sup>れ<sup>れ</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>事<sup>事</sup>なり<sup>なり</sup>田<sup>田</sup>舎<sup>舎</sup>の<sup>の</sup>は<sup>は</sup>よ<sup>よ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>を<sup>を</sup>修<sup>修</sup>る<sup>る</sup>  
の<sup>の</sup>多<sup>多</sup>くも<sup>も</sup>修<sup>修</sup>る<sup>る</sup>候<sup>候</sup>なり<sup>なり</sup>と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>を<sup>を</sup>  
子<sup>子</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>を<sup>を</sup>修<sup>修</sup>る<sup>る</sup>候<sup>候</sup>なり<sup>なり</sup>と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>を<sup>を</sup>  
の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>を<sup>を</sup>修<sup>修</sup>る<sup>る</sup>候<sup>候</sup>なり<sup>なり</sup>と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>を<sup>を</sup>

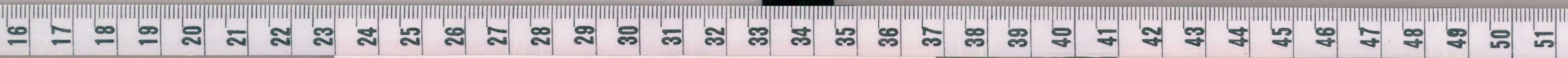
十日<sup>十日</sup>より後<sup>後</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>候<sup>候</sup>なり<sup>なり</sup>と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>を<sup>を</sup>  
十日<sup>十日</sup>より後<sup>後</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>候<sup>候</sup>なり<sup>なり</sup>と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>を<sup>を</sup>

十日<sup>十日</sup>より後<sup>後</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>候<sup>候</sup>なり<sup>なり</sup>と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>を<sup>を</sup>  
十日<sup>十日</sup>より後<sup>後</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>候<sup>候</sup>なり<sup>なり</sup>と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>を<sup>を</sup>

十日<sup>十日</sup>より後<sup>後</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>候<sup>候</sup>なり<sup>なり</sup>と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>を<sup>を</sup>  
十日<sup>十日</sup>より後<sup>後</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>候<sup>候</sup>なり<sup>なり</sup>と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>を<sup>を</sup>

三十一

三十一





牡丹併の御供してあり

は月御事傳ひの

十月より御事傳ひのよこぬて牡丹の御事は  
そろり多し御事傳ひのよこぬて牡丹の御事は  
名ら月御事傳ひのよこぬて牡丹の御事は  
へ御事傳ひのよこぬて牡丹の御事は  
御事傳ひのよこぬて牡丹の御事は  
ら御事傳ひのよこぬて牡丹の御事は  
かむとあり

牡丹の御事傳ひのよこぬて牡丹の御事は  
は月御事傳ひのよこぬて牡丹の御事は

十月

まのこの事

言者これらにふたういかに事傳ひのよこぬて牡丹の御事は

は月御事傳ひのよこぬて牡丹の御事は

上高の御事傳ひのよこぬて牡丹の御事は  
御事傳ひのよこぬて牡丹の御事は  
は月御事傳ひのよこぬて牡丹の御事は  
名ら月御事傳ひのよこぬて牡丹の御事は  
へ御事傳ひのよこぬて牡丹の御事は  
御事傳ひのよこぬて牡丹の御事は  
ら御事傳ひのよこぬて牡丹の御事は  
かむとあり



牡丹併の納してあり

は浪津本傳の

十月に津波の事よにぬとて牡丹の事は  
その事多し津波の事よにぬとて牡丹の事は  
その事多し津波の事よにぬとて牡丹の事は  
その事多し津波の事よにぬとて牡丹の事は  
その事多し津波の事よにぬとて牡丹の事は  
その事多し津波の事よにぬとて牡丹の事は  
その事多し津波の事よにぬとて牡丹の事は  
その事多し津波の事よにぬとて牡丹の事は  
その事多し津波の事よにぬとて牡丹の事は  
その事多し津波の事よにぬとて牡丹の事は

Handwritten notes at the top of the page, partially obscured.

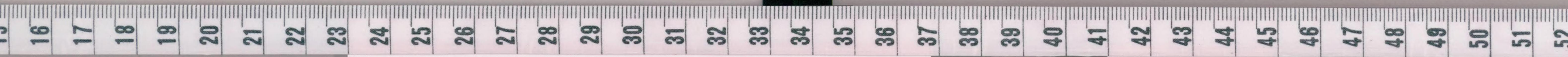
十月

亥の日の事

亥の日の事  
亥の日の事  
亥の日の事  
亥の日の事  
亥の日の事  
亥の日の事  
亥の日の事  
亥の日の事  
亥の日の事  
亥の日の事

卯の日の事

卯の日の事  
卯の日の事  
卯の日の事  
卯の日の事  
卯の日の事  
卯の日の事  
卯の日の事  
卯の日の事  
卯の日の事  
卯の日の事































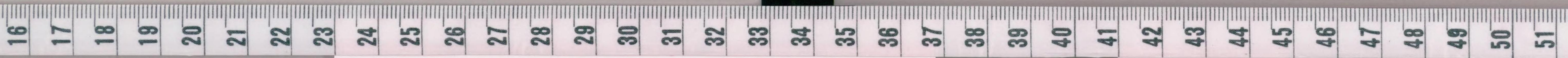


士家とて是を平流の古言のまじりてしるすけのし  
そあつたらむと傳はれん氏はおしとてしるすけのし  
望族あつたらむのしかりし祝ののし式礼とてしるす  
御一とて下るる也やとてしるすけのし  
とてしるすけのしとてしるすけのし  
おろすてしるすけのしとてしるすけのし  
年とてしるすけのしとてしるすけのし

年とてしるすけのしとてしるすけのし  
年とてしるすけのしとてしるすけのし  
年とてしるすけのしとてしるすけのし  
年とてしるすけのしとてしるすけのし  
年とてしるすけのしとてしるすけのし  
年とてしるすけのしとてしるすけのし  
年とてしるすけのしとてしるすけのし  
年とてしるすけのしとてしるすけのし  
年とてしるすけのしとてしるすけのし  
年とてしるすけのしとてしるすけのし

修飾のり事とてしるすけのし  
修飾のり事とてしるすけのし  
修飾のり事とてしるすけのし  
修飾のり事とてしるすけのし  
修飾のり事とてしるすけのし  
修飾のり事とてしるすけのし  
修飾のり事とてしるすけのし  
修飾のり事とてしるすけのし  
修飾のり事とてしるすけのし  
修飾のり事とてしるすけのし

五十一















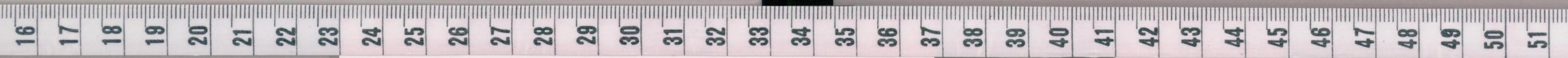


田樂者幸若ホの端か傳ふるに神工の何神舞  
の外舞の舞物も舞物とあるは神職のことから  
こゝし傳りゆめしつゝも限つゝも事やあるに  
今振ふとて花やうの古風の傳はれん  
まゝとて萩やゆめしつゝも限つゝも事やあるに  
此やいそりやとて中ねる下しものなりしうは  
たゞしあるにこの古風の端のやいほらん  
も合縁多々あるは此のすう習茶伝り院の様  
みこの歌もあつて職方のこのや  
はかたかたの作といふもこのやう振ふをたて候り  
うたの事ありておそくもこのやう振ふをたて候り  
後かたといふの職方あり是れ縁多々のあり  
此の縁多々の縁多々のありしうは此のやいほらん  
事なほつゝこのやいほらんは縁多々のありしうは

是る職すし候なり  
おれつゝあのか  
大衆のいふはもとやのいふはしつゝあつて  
前よりあつてしつゝあつてはた

風俗問状答終

四十一





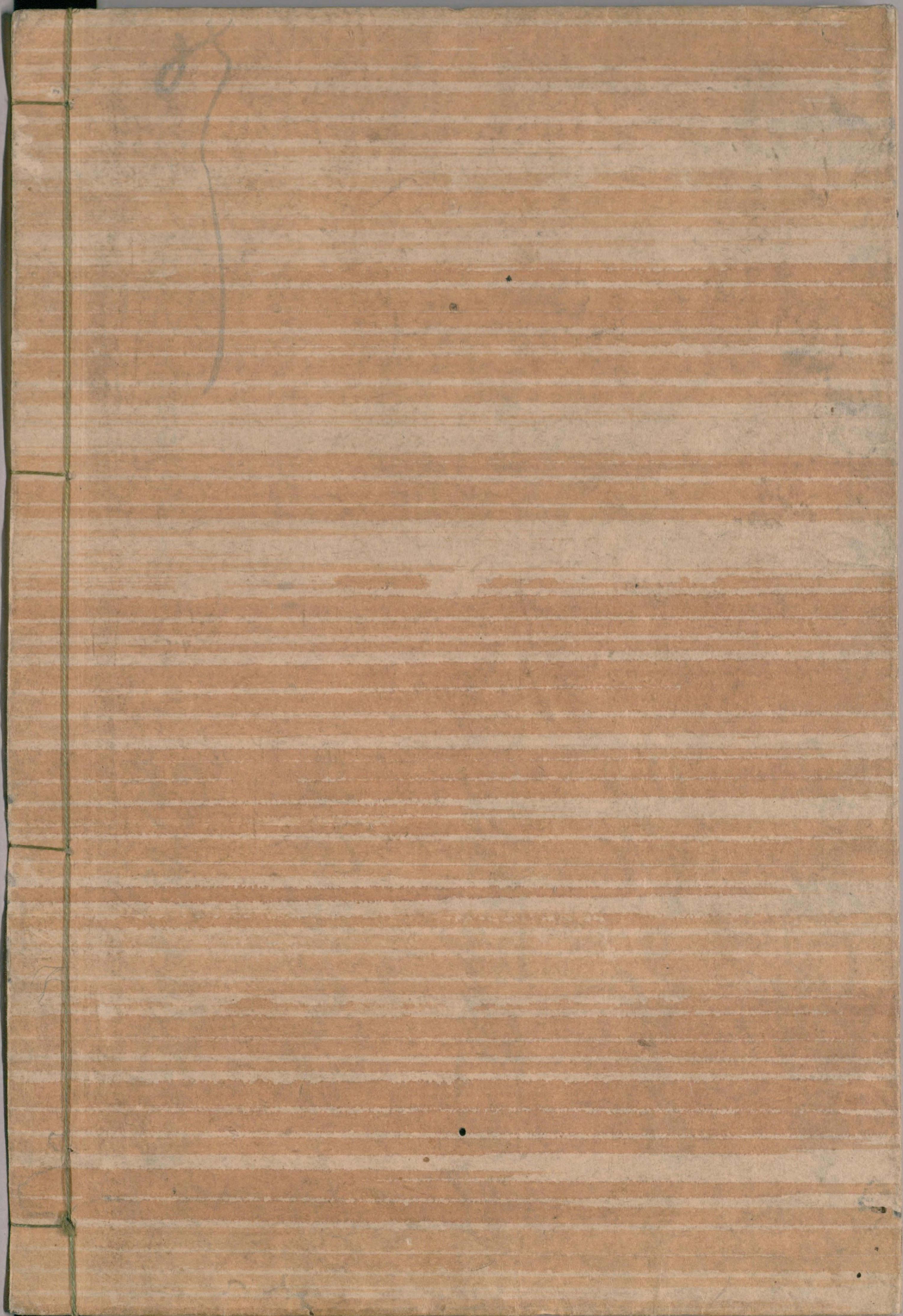
857  
131

文化十世子年正月

公議奥沖諸事處代為執事  
書之諸國之風俗以同合有之  
當所新際之由身之之  
之及以後有同言旨之  
之於之之之之之之之  
之之書之之同年八月下旬中  
諸事

秋山彦之





国立国会図書館 タイトル『諸国風俗問状答』 請求記号 857-131

ガラス使用